

校庭に沿って流れる国安川のほとりの桜も、新入生を待ちわびていたかのように、満開となり、光あふれる春が訪れてきました。本日、ここに、

愛媛県議会議員 毛利 修三様、

PTA 会長 牧野 弘美様、

同窓会長 板倉 定夫様はじめ、御来賓の皆様の御臨席と保護者の皆様の御列席を賜り、令和七年度愛媛県立吉田高等学校入学式を執り行うことができますことは、新入生はもとより本校教職員一同にとっても、大きな喜びであり、謹んで感謝申し上げます。

ただ今、入学を許可いたしました百名の新入生の皆さん、御入学おめでとうございます。皆さんの御入学を心からお祝いするとともに、皆さんを今日まで見守り立派に育ててこられた保護者の皆様に、心からお慶びを申し上げます。

吉田高等学校は、一九一七年、山下亀三郎氏によって設立された私立山下実科高等女学校と、一九二三年に村井保固氏、清家吉次郎氏、山下亀三郎氏によって設立された吉田町立吉田中学校が、前身となっており、創立百八年目を迎えます。また、秋祭りのお練りがこの春、国の重要無形民俗文化財に指定されるなど、歴史と伝統の町にある本校は、名実とも歴史ある伝統校です。同窓生は、二万三千百五名にも上り、地域社会に貢献した素晴らしい先輩方が学んでこられました。入学に、大いに自信と誇りを持つとともに、本校の歴史に新たなページを刻んでくれることを期待しています。

さて、皆さんは、この日をどのように迎え、どのような思いでその場にいるのでしょうか。不安や緊張、夢や希望が入り混じる複雑な思いでいることと思います。人は、自分が幸せで上手くいっているポジティブな時には、すぐ傍で不安で落ち込んでいる人のことに気づけず、その人に優しく声を掛けたり、気持ちに寄り添ったりすることができないことが多いのに、逆に、自分が不安な気持ちでいたり落ち込んでいたりする時には、自分に優しく声を掛け、気持ちを救ってくれる人がいない、自分は孤独だと感じてしまいがちです。緊張や不安を振り払い、自分から、傍にいる人に声を掛け、これからは良い時もそうでない時も、それぞれの希望や夢、それぞれの悩みや不安を語り、互いに思いやることのできる良き友人としての関係をスタートさせてください。

新しい制服を着て高校生活をスタートするに当たり、制服を例にして、忘れてはならないことを一つお話します。今日初めて着た制服を、朝、皆さんのために枕元に揃えてくれていた人がいます。今日の入学式を当たり前を迎えるために、誰かが皆さんのために、良き環境を作り出していることを忘れないでください。今ここに入学ができたのも、自分自身の力だけではなく、保護者の方々、地域の方々、友達など、多くの人たちの支えがあったことを忘れてはなりません。朝起きて新しい制服や靴が綺麗に揃えてあったのも、歩いてきた町や道路が綺麗に整っているのも、全ての当たり前は実はいろんな人たちの優しさや思いやりで作られているのです。「ありがとう」と伝えなくてはならない、多くの人たちが必ずいます。私が今ここで伝えたいことは、感謝の気持ちを持つこと、それ以上に、今度は、新入生の皆さん自身が「ありがとう」と言われる行動を積み重ね、人のために、当たり前を作り出せる

人、「ありがとう」と感謝される側の人になることです。「ありがとう」があふれる学校、環境を、皆さんが作り出してください。

結びになりますが、私たち教職員一同は、総力をあげて、一人一人を支援し、大いに鍛え、励まし、新入生が生き生きと活動しそれぞれの夢の実現を支援してまいります。御来賓の皆様、保護者の皆様、どうか本校の教育活動に対しまして、温かい御支援と御協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、新入生全員が高校生活を通して大きく成長することを祈念いたしまして、式辞といたします。

令和七年四月八日

愛媛県立吉田高等学校

校長 宮植 尋史